

# 藤女子大学 図書館 だより



Fuji Women's  
University  
Library

新入生  
歓迎号

No.101  
2022.4



1. 図書館に寄港する  
—社会という海での安全な航海のために…… 食物栄養学科 奥村 昌子
4. 学生による企画展示
6. LiSt活動報告 第7回
6. LiStによるオンライン選書実施
7. 図書館からのお知らせ  
新型コロナウイルス感染症に対する  
図書館の感染防止対策について
8. 図書館資料Navi 第16回  
法学雑誌・判例雑誌と判例「研究」  
…… 文化総合学科 真鶴 俊喜

CONTENTS



## 図書館に寄港する

—社会という海での安全な航海のために

食物栄養学科 奥村 昌子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。いよいよ大学生活が始まりましたね。新しい場所、新しい出会い、新しい学び…これまでとは異なる新しい波が押し寄せる毎日で、うれしい戸惑いと緊張の中を泳いでいる感じでしょうか。今回は、大学生活をスタートした学生の皆さんと、これからの「大学の4年間」について考える機会にしたいと思います。

### 大学の4年間

自分で進学を決めた大学での4年間。高校生の時に考えていた「学びたい」を身につけていくために、今まで以上に自分で選択するという機会は増え、「自分」をデザインしていく時間が始まります。と言いつつ、私自身が大学生の頃は、このようには一ミリも考えることはできていませんでした。卒業してから「あの時間はいったいなんだったのか」と思い返した時、自分の人生をつくり始めた最初の時期だったのではと気づき、「自分をデザ

インしていく時間の始まり」と表現してみたというのが本当のところでは。

「自分で自分をデザインする時間だなんて、聞いてもピンとこないんですけど!？」という方も多いのではと思います。「大学生活の取扱説明書」の類の書籍が複数あるようです。これからの大学生活を考える際に、こういった書籍を一つの基準にしつつ、自分にフィットさせながら、「自分をデザイン」していくこともよいのではないのでしょうか。そのような本の一冊に加藤諦三の『大学で何を学ぶか』があります。大学生や大学を目指す高校生に向けて書かれた本です。私自身は40代になってから読む機会を得ましたが、大学生の頃に読んでいたら、モヤモヤしたあの気持ちを言語化できて、もう少しスムーズに整理できたのではないかと思った一冊です。本のカバーに「大学はこれからの自分の人生について考えるところである」とあり、そのためのヒントが書かれています。「大学で何を創るか」のプロローグから始まり、「ゼロから」

「講義から」「進路を」「人間から」「生活から」の学びの各章、2009年に追加された章「希望をもつ強さ」で構成されています。第2章「講義から学ぶ」の小項目「読書について」では、本との向き合い方が書かれており、「読書」のとらえ方が広がるかもしれません。また、頭の中に「退学」という言葉がぼんやりと灯っている人には、第4章の「人間から学ぶ」の中の「輝かしきドロップ・アウト」の一読がおすすめです。

どの章も多くの事例が取り上げられており、「大学での学び」をイメージしやすいです。しかしながら、ネガティブな事例に「女子大学生」「女子」が頻出する感じが気になります。調べてみると、この本の初版は1979年で、女性の進学率が大学12.2%（男性39.3%）、短大20.9%<sup>[1]</sup>の時に出版されていました。そのため、この本に出てくる「大学生」は「男子大学生」という意味かもしれません。だとしても、取り上げられている女子大学生の例は、現代には合致しない、あるいは、偏見的な感があるので、その部分は批判的な吟味をしながら読むと面白いです。



### 『大学で何を学ぶか』

加藤諦三著、ベストセラーズ、2009  
請求記号:377/Ka86 (花川館所蔵)

著者は50年近くラジオで人生相談に回答しています。食事相談にアドバイスするAI開発の仕事のために、人気の「悩み相談」や「占い」のコメントを調査していた時にこの書籍を知りました。悩み相談や占いのように、食事相談はこれから先も必要とされる分野です。

2022年度に大学生となった皆さんにとっては「1970年代の大学生向けに書かれた本は古いのでは」と心配かもしれません。ただ、大学生ではなく、教員としてこの書籍を読んでみても、長い時間を経ても、「大学の4年間」での学びの本質はあまり



奥村昌子  
四十五歳ごろに小料理屋をやるので、クラス会に使ってください。

青年期に決着をつけた？  
大学4年次の筆者。

変わらないように思います（女子のディスリ方があまり変わっていないのも悲しい点ですが）。ちなみに1990年代に大学生だった私は、「大学を卒業するときこそ青年期に決着をつけて卒業してほしい（第3章「進路を学ぶ」）」という著者の言葉で、「大学でのあのものがきは、これだったのか!」となりました。20

年以上を経て、大学生の頃のどんよりとした時間に言葉が与えられ、明るい気持ちになりました。このように、自分ではうまく言語化できないことを言い当てる言葉に出会える瞬間は、読書の醍醐味であると私は感じています。

## 「女子大で学ぶ」ということ

私は、本学の食物栄養学科で4年間を過ごしました。実習や実験が多く、様々なメンバーとの調理や給食づくり、栄養教育、食品加工実験などは、とても楽しい学びの時間でした。実習は、管理栄養士としての実践につながるものなので、緊張感もありました。その中で「管理栄養士の職場は女性の世界。だからいろいろある」と、事あるごとにおっしゃる先生がいました。ユニークな同級生がいるのは確かですが、それぞれの良さや強みを尊重しながら役割分担し、実習・実験といったプロジェクトに取り組むその過程は面白く、また心地よさがありました。そのため、その先生の言葉を聞いても、「卒業後の社会」のような、自分事としては理解できずにいました。

私の初めての「卒業後の社会」は、小さな町の保健センターでした。所属した課は保育所も管轄しており、同僚は保健師はじめ保育士などで、町役場の中では圧倒的に女性が多い部署でした。まさに、在学中に学んだ「女性が多い職場はいろいろある」という知識をこの目で確かめ、自分事として理解できそうな職場環境です。働き始めると、「職場のいろいろ」があることは、すぐに理解できるようになりました。しかし、それらは「女性が多いからなどではなく、性別に起因するものではない」ともわかるようになりました。社会や組織のシステムは、多数派や声の大きい人たちにとって有利なものになっていました。よく考えれば当たり前ののですが、働いてからようやくそれを認識することができました。多数派の波に飲み込まれそうになったり、飲み込まれて流されてしまったりすることこそが、まさに「職場のいろいろ」でした。組織全体では圧倒的に男性が多かったため、私たちの部署の誰かの発言は、「少数派の」「女性の」発言ということになりがちでした。さらに管理栄養士は私一人しかいなかったため、私の発言も同様でした。その後、刑務所やいくつかの大学で「職場のいろいろ」を経験し、今では「職場のいろいろは、女性が多いことが理由ではない」と大学での教えの間違いははっきりと指摘できるようになりました。

大学を卒業して四半世紀が経ちます。残念ながら、社会の多数派の波が、時に女性にとっては大きな波となることは、未だ解消はされていません。これから社会に出ることになる学生の皆さんには、改善がスローなこの状況に対して、社会人として心苦しく思います。大学では、女性だけの環境ゆえに、性別にとらわれることなく、

リーダーになったり、作業メンバーになったりと、臨機応変に互いの強みと弱点を補いながら、皆で課題解決に取り組むことの面白さを感じることができました。同級生や教職員の方々と関わりの中で、自分の力をのびのびと、心置きなく試してみる機会となっていました。もちろん失敗も多数ありました。その時に培った僅かながらの自分の力がなかったら、もしかすると、たやすく理不尽な波に飲み込まれる、難破船のような自分になっていたかもしれません。そのため、新入生、在学生の皆さんには、「女子大」という環境だからこそ得られる、「強く生きるための知」を積極的に身につけてもらいたいと願うばかりです。同時に「強く生きるための知」を身につけた仲間が社会に増えることを楽しみにしています。

前述したとおり「女子大」で学ぶメリットは、性別にとらわれず、楽しく、たくましく、自分を知り、自分を謳歌できる点です。デメリットは、自分たちが生きる社会は、



『女子はどう生きるか』  
上野千鶴子著、岩波書店、  
2021  
請求記号:367.1/U45 (花川館所蔵)

多様な性や立場の人たちによって構成されていることや、多数派や見えづらい力による波が頻りに襲ってくる社会があることを忘れがちになることです。10代の女性向けに書かれた『女子はどう生きるか』では、社会の中の女性のあり方をQ & Aスタイルで分かりやすく解説しています(巻末の書籍や映画の紹介も必見です)。私たちが生きている社会という大きな海の構造を女性の視点

から知ること、「強く生きるための知」として何を身につけるかを考えるきっかけを与えてくれる一冊です。本学では既に読んだ学生も少なくないのではと思います。この本に掲載された著者の上野千鶴子氏の東京大学の入学式祝辞全文の中に次の一文があります。

「あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くために使わないでください。恵まれた環境と恵まれた能力とを、恵まれないひとびとを貶めるためではなく、そういうひとびとを助けるために使ってください。そして強がらず、自分の弱さを認め、支え合って生きてください。」

この「強がらず、自分の弱さを認め、支え合って生きる」ための力は、藤女子大学での学生生活を通して経験し、身につけていくことができる力です。そして、そのためにも、大学という環境を大いに活用してほしいです。

### 図書館に寄港する

大学の図書館は、港のような場所です。港は、船が船体を整え、航海に備える場所です。私たちは、図書館の書棚の間を泳ぐように進みながら、書籍との出会いを通して、新しい発見や、頭の中にあるモヤモヤの解決、「好き」を掘り下げ、言語化していくことができます。社会という海での安全な航海のために、図書館は、「自分」という船に「情報」という燃料を与えてくれます。自分の船に、どのような情報を与え、カッコいい船にデザインしていくのか、それを考える時間が持てる場所、そのひとつが大学の図書館です。

図書館という港に立ち寄りながら、皆さんの「大学の4年間」が、社会の荒波をも上手に乗りこなすための「知の力」を身につける時間となることを願っています。



『食品の研究:アメリカのスーパーマーケット』  
請求記号:498.5/St2 (花川館所蔵)

『これいただくわ (I'll Take It)』  
請求記号:A933.5/R82 (本館所蔵)

『スーパーの女』(Blu-ray)  
請求記号:e/BD/236 (本館所蔵)



大学の図書館で出会った書籍。卒業後の仕事や生き方にも影響を与えてくれました。映画も含め「スーパーマーケット3部作」と名付け、今は自分でも所有しています。スーパーマーケットや市場は、その地域に住む人が何を買い、何を食べているのかわかるためには欠かせない情報入手先のひとつです。写真は、母子保健プロジェクトで関わっている北インドの路上市場。インド農村部では市場で食材を購入するのは男性の仕事。そのため、食事についての栄養教育では、男性の理解を得る工夫が重要です。野菜の市場は、気温が低い朝夕にオープンします。

[1] 内閣府 男女共同参画局. 男女共同参画白書 令和元年版 本編 I- 特集「第1節 女性の教育・学びの進展」[E-特1図 学校種類別進学率の推移]. [https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r01/zentai/html/honpen/b1\\_s00\\_01.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r01/zentai/html/honpen/b1_s00_01.html) (2022年1月19日アクセス)

# 展示紹介 学生による企画展示



花川館では、2021年度後期にカウンター前のスペースと図書館外の展示ケースで学生さんによる企画展示を行っていました。

図書館では、個人やゼミなどで企画展示をしてくれる学生さんを募集しています。興味のある方は図書館カウンターにお問い合わせください。

今回は個人で展示してくれた3名の学生さんとゼミで展示してくれた2名の学生さんに紹介してもらいました。（\*展示当時の学年を記載しています。）

## 人間生活学科4年 Oさん

2021年10月12日から3週間、プロジェクトマネジメントⅢの活動の一環で「マイクロプラスチック問題の啓発絵本の企画・制作・展示プロジェクト」という内容で展示を行いました。プロジェクト用に制作した絵本と併せて、マイクロプラスチック問題に関連する書籍もポップを作成し展示しました。

啓発絵本を作る過程で、「プラスチックがいつから大量生産されて、いつから問題にされていたのか」など自分が知らなかったことを多く学ぶことができました。また、マイクロプラスチック自体を知らなかった人もいて、あまり認知されていないという現状も分かりました。制作した絵本や展示を見て「具体的な取り組みやどのような物かを知れたし、前より環境問題を自分事として捉えることが出来そう」という感想を頂き、私の人生の中でとても貴重な出来事になりました。反省点は、フィードバックを取り忘れてしまったことです。

今回の展示で「マイクロプラスチック」という言葉に敏感になって頂いたり、前よりも我が事と考えて頂けたら実施して良かったと思います。



## 食物栄養学科4年 Kさん

私は食品サンプルが幼い頃から好きだ。

食品サンプルは興味がなければ意識しないジャンルだと私は思っている。ショーウィンドウの前で食品サンプルを眺めていてもそれは何を食べようかが優先となり、食品サンプルがどう作られているのかなど思いはせることは興味がなければほとんどないかもしれない。

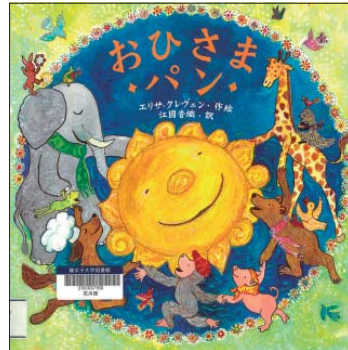
『食品サンプルの誕生』からは食品サンプルはいつ生まれたのか、日本の外食産業との密接な関係を築いてきたのか、どのようにして食品サンプルの精巧さが磨かれてきたのかといった歴史を知ることができ、『食品サンプル百貨店』はレストランや喫茶店のショーウィンドウに並んでいる食品サンプルが、いかにして食欲がそそられるように工夫されているのかを図鑑のように紹介されていて眺めるのが楽しい。

私はそんな【食品サンプルの世界】を書籍や食品サンプルの実物展示を通して、多くの方が興味を持つきっかけづくりとなったのであれば嬉しく思います。



## 人間生活学研究科食物栄養学専攻1年 Kさん

今回、【食べもので心と心をつなげよう】というテーマで展示をさせていただきました。食べものは、食べることで気持ちが落ち着いたり、誰かと一緒に食べることで笑顔が生まれたりするなど、私たちの身体だけではなく心にも影響を与えています。この展示では、それらを感じることができる本を、レシピ集から絵本まで幅広く並べました。ここでは、その中から2冊を紹介します。1冊目は『おひさまパン』です。おひさまが隠れてしまい、悪天候が続く町で、パン屋さんがおひさま味の特別なパンを焼きます。食は笑顔のきっかけになると感じることができる絵本です。2冊目は、『幸せの北海道スイーツ 極上のお菓子案内』です。北海道の様々な町の洋菓子や和菓子、牧場生まれのお菓子などについて紹介されています。本を通して、お菓子作りに携わる人々の想いや北海道の町の物語が伝わってきます。この展示が、食と心の関わりについて関心を持つきっかけになれば嬉しく思います。



## 人間生活学科3年 長尾ゼミ (Sさん、Hさん)

こんにちは、人間生活学科被服学ゼミ3年生です！

私たちは、昨年の11月30日から花川図書館にて【鳥かご?! いいえ、下着なんです】というテーマのもと、ミニクリノリンドレスと関連年表を作成し、図書館にあるクリノリンにまつわる本と一緒に展示させていただきました。

クリノリンとは、19世紀中頃から着用されはじめたヨーロッパ女性の下着をさします。スカートを膨らませられるよう、フープ(枠)を重ねた鳥かご状の形をしていました。

展示では、クリノリンの素材という細部から西洋服飾史という大きな括りまで、様々な本を紹介しています。

ゼミメンバーで展示図書のキャプションも作成したので、心惹かれる本があったらぜひ読んでみてください！



### 『ファッション・プレート全集3：19世紀中期 ロマンティック2 クリノリン』

ファッション・プレートとは、当時の最新のファッションを伝える銅版画の事です。イラスト制作やミニクリノリンドレスのデザイン、クリノリンのフープの数など、本展示の参考にしました。

本書には、各年代を象徴する服飾画像の下に、当時実際に使用された生地、デザインの説明が記載されています。この記述から、当時の被服に関する意識や、素材の価格などを読み解くことができます。

学術的に使用するだけでなく、当時の人々と同じようにカタログのように眺めるだけでも楽しめます。

自分好みのクリノリンドレスを見つけてみませんか？



# LiSt 活動報告 第7回

## 「コロナ禍に負けず活動しています！」

2020年度は対面での授業が1ヶ月あまりの短い期間だったということもあり、私たちLiStの勤務もそれと同期間でした。ですがZoomを使ったミーティングを数回開催し、勤務の再開後の活動について話し合いました。

2021年度は対面授業が増え、私たちも勤務に戻ることができました。本を书架に戻す配架作業や貸出・返却等の業務に加え、本館ではLiStが情報発信をする「ホワイトボード」を約1年ぶりに更新し、また選書ツアーやクリスマスの企画展示も行いました。11月20日より土曜日の通常開館が再開され、コロナ禍以前の状態に近づけていることを非常に嬉しく思います。これを書いている現在は4月の新入生オリエンテーションに向けて準備を進めているところです。

図書館では換気を徹底し、本を除菌する機械も導入されました。本館では、閉館後にはラーニング・commonsの机やパソコン周辺アルコール消毒を行っています。今後も引き続き皆さんが快適に利用できるよう努めて参ります。(北16条LiSt O)

\*花川館は、11月27日(土)から土曜日通常開館。机は使用のたびに消毒し、パソコン等は時間を決めて消毒しています。

\*大学の危機管理指針レベルが3に引き上げられたため、1月29日(土)から両館とも土曜日は休日開館に変更。

## LiStによるオンライン選書実施

選書した資料は各館で展示をしていたので気になった方もいたのではないのでしょうか？

2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大学が非対面授業になったり、対面授業であっても学生さんと一緒に書店に行つての選書ツアーは難しい状況となっていました。そんな中、2021年度後期に学生スタッフLiStが初めてオンラインで選書を行いました。各館のLiStに初めて行ったオンライン選書の感想と選んだ本の紹介をしてもらいました。

気になった本はぜひ借りて読んでみてください。

### 北16条LiSt Hさん

オンラインでの選書は、本の実物を手に取ることが出来ないため難しかったです。そこで、情報誌を参考にしたり、自分が今までに読んだ本を思い出したりして、幅広いジャンルから大学生の皆さんに読んでほしい本を選びました。その中の一冊、『ひとりの時間が僕を救う』は、現役大学生YouTuberの「パーカー」さんのエッセイです。人間関係に悩みや不安を抱えるあなたに、ひとりの時間の大切さを教えてくれる一冊です。

\*北16条では、2回に分けて展示を行いました。



### 花川LiSt Hさん

今回初めてオンライン選書を行つてみて、本のレビューなどから実際に手に取つた方々の声を聞くことや、ランキングの検索を用いて分野の中で人気の本を知ることができたため、本屋さんよりも選書が便利に行えるという利点があると感じました。自分の生活に役立つ本と出会う良い機会になりました。

私が選んだ本の中で紹介したいものは『資料作成&プレゼン 完全: 通過率84.6%のプロが教える』です。授業のスライドづくりや、卒業研究の資料づくりにも役立つ情報が詰まっています。



# 図書館からのお知らせ

## 新型コロナウイルス感染症に対する図書館の感染防止対策について

新型コロナウイルス感染防止のため、図書館ではこれまで、様々な対策に取り組んでまいりました。

### 1. 設備面での取り組み

#### ・消毒用グッズを設置しています

図書館入口には消毒用アルコールを設置しています。入退館時には手指の消毒にご協力をお願いします。

本館では閲覧機等の消毒用に、除菌用ウエットティッシュも設置していますのでご利用ください。花川館では閲覧席等は利用後に職員が消毒しています。また気になる方はカウンターで除菌用ウエットティッシュをお渡ししています。



#### ・閲覧席は席を間引きしています

閲覧席に座席番号とQRコードを添付しています。体調管理表への記入とQRコードをスマートフォンで読み込み使用した座席の登録をお願いします。

本館ではラーニング commons も、配置を変更し、一人ずつ利用できるスペースにしました。

花川館ではアクティブ・ラーニング・スペースの利用を中止しています。閲覧席利用終了時には「消毒済」の札をカウンターに持って来ていただき、職員が消毒を行っています。



#### ・貸出・参考カウンターにはアクリル板を設置しています

#### ・館内の換気を常時行っています

寒い日もあると思いますが、ご理解ご協力をお願いします。

#### ・除菌ボックスを設置しました

2021年4月、両館に図書用の除菌ボックスを設置しました。45秒という短時間で除菌が可能な装置です。どうぞご利用ください。



### 2. サービス面での取り組み

大学の危機管理指針レベルに応じて、来館していただくことが困難な時期には、次のようなサービスを行いました。

#### ・貸出期限日の延長

#### ・ILL料金の無料化

\* 対面授業開始後は、4年生と大学院生のみ無料

#### ・在学生への所蔵図書・論文の郵送（無料）

2020年度 本館 図書郵送 250名 640冊、論文郵送 36名 78件  
花川館 図書郵送 92名 283冊、論文郵送 22名 53件

2021年度（2022.2現在）本館 図書郵送 67名 166冊、論文郵送 9名 18件  
花川館 図書郵送 22名 53冊、論文郵送 2名 2件

#### ・卒業生への所蔵図書の郵送貸出（有料）

#### ・オンラインガイダンスの実施

#### ・メールによるレファレンスサービスの実施



除菌ボックス

### 3. LiStの活動について

対面での活動が困難な時には、ミーティングもオンラインで行いました。

また、初めての試みとしてオンライン選書を企画しました。

詳しくは「LiStによるオンライン選書実施」で紹介しています。



図書館では、利用者の皆様に安心して図書館をご利用いただけるよう、これからも感染防止対策に努めてまいります。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

# 法学雑誌・判例雑誌と判例「研究」

文化総合学科 真鶴 俊喜

私が担当している法学ゼミ（「法学演習」文化総合学科専門科目、2・3年生対象）では、各受講生が自分の関心に合わせて、1つのテーマでまとめられた論文を選び、解説します。卒業研究に向けて、具体的なテーマを探し、先行研究としておさえてもらうということの他、法学の問題設定の仕方、追求の仕方などに触れてもらい、法学研究の方法論を学んでもらうという意図を込めた授業内容です。まとまりと分量という点を考慮して、受講生にはなるべく法学雑誌から研究論文を選んでもらうこととしています。



当大学の図書館に所蔵されているものとしては、「ジュリスト」、「法学教室」、「法律時報」、「法学セミナー」（いずれも月刊）の4誌で、商業雑誌です。最近では、研究論文の中でも、特定の判例を扱ったものを取り上げる受講生が多くなっています。「別冊ジュリスト」（当大学図書館所蔵）として出版されている「・・・判例百選」のシリーズで、旧いものから最近のものまで、各法分野の重要判例を見開き2頁で紹介、解説するという形式の論文です。それぞれの判例については、その分野の気鋭の研究者が分担執筆しています。見開き2頁というかなり制限された紙幅に複雑な問題意識や論理が凝縮されているので、受講生が分量の「軽さ」に惹かれて選ぶと、理解できないところが多くて苦労するといったことも少なくありません。

こういった、いわゆる判例研究の論文を研究・解説するためには、そこで扱われているもとの判例をしっかりおさえておくことが求められます。実際に判決に際して書かれた判決文を正確に取

録したものを一般に判例集といいます。そのうち、とくに商業誌として出版されているものを判例雑誌と区別することがあります。「最高裁判所刑事判例集」（刑集）や「最高裁判所民事判例集」（民集）は最高裁で選ばれた判例を掲載する公式判例集ですが、これらは当大学図書館にはありません。商業誌ではありますが、掲載判例の多さで定評があるものとして「判例時報」（判時）と「判例タイムズ」（判夕）があります。これらは、法学研究の分野において判例の出典として引用することが認められており、資料として信頼されています。ちなみに、「判例時報」は、当大学図書館に創刊号から最新号まで継続しておかれています。「判例タイムズ」はありません。上記の判例集には、重要と考えられる判例についての専門の調査官などによる解説やコメントも記載されている場合があります。これらも研究の資料として参考になります。

法学研究に携わらない方は、上記のような判例集を見る機会はないと思いますが、それでも一度、見ていただきたいと思います。なじみや関心がない方には、そこに記されている判決文はかなり難解なものに感じられるでしょう。実際、独特の特徴があり、こういったところに対しては、法社会学の研究者からの批判があります。とくに目につくのは、一文の中になるべく多くの情報（前提、限定、説明など）を詰め込もうとしたり、句点にたどり着くために非常に多くの読み点を通り抜けなければならない文章が多いことです。わかりやすい裁判、なじみやすい裁判を標榜している司法改革の流れの中、多少の改善は試みられているようですが、判決文の（ひいては法学の文章の）そのようなクセは、相変わらずのようです。なぜなのか、引いた目でそこを調べてみる、というのもよいでしょう。



## ● 編集後記 ●

巻頭言は「図書館に寄港する一社会という海での安全な航海のために」と題し、奥村先生からご寄稿いただきました。先生の学生時代、社会人になってからのエピソードや学生さんにおすすめの本をご紹介いただきました。図書館資料Naviは「法学雑誌・判例雑誌と判例「研究」」と題し、真鶴先生から本館に所蔵がある法学関係の雑誌についてご寄稿いただきました。

図書館では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため様々な対策を行っています。非対面授業になった時に、図書館の本をご自宅に郵送するサービスを行っていましたがご存じだったでしょうか？自粛や制限のある生活が始まって2年…。気兼ねなく友人との食事や旅行を楽しめるのは残念ながらもう少し先になりそうな感じです。絶景や動物の写真集に癒されたり、本を見ながらDIYなど手作りをしたり…。なかなか自由に外出できない今、本を読んで自分の世界を広げてみませんか？（W）



図書館キャラクター  
「きしんさん」

スマートフォンでは  
アプリを利用でき  
ます

藤女子大学 図書館だより 第101号 2022.3

発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770

<http://www.fujijoshi.ac.jp/library/>